第２章　帯広市の概況

第１節　自然条件

１　位　置

帯広市は十勝平野のほぼ中心部に位置し、東は札内川を境に幕別町、西は芽室町、南は中札内及び更別村、北は十勝川を境に音更町に接している。

東端	北緯42°　45′　47″	東経	143°　16′　6″
西端	北緯42°　44′　52″	東経	142°　41′　13″
南端	北緯42°　36′　53″	東経	142°　54′　2″
北端	北緯42°　57′　10″	東経	143°　7′　50″

東　西	46.8　ｋｍ
南　北	43.3　ｋｍ
周囲長	190.2　ｋｍ
面　積	618.94ｋ㎡

帯広市役所地点	北緯42°　55′　25″	東経143°　11′　48″
	標高　39.01ｍ	
帯広測候所地点	海抜　38.4　ｍ	

２　地　勢

（１）本市が中央に位置する十勝平野は、北海道の南東部にあり、西は日高山脈、北は大雪火山群・十勝火山群、東は白糠丘陵に囲まれ、南は豊頃丘陵を経て、太平洋に臨んでいる。

（２）地質構造的には、関東平野に類似する構造盆地をなすといわれ、造盆運動による数度の沈降と上昇を繰り返し、本市付近に河川が集中するという特異な河川形態をとる一大構造盆地を形成している。

（３）平野の大部分は、東部の洪積台地である豊頃丘陵地、北部の然別火山群の裾に広がる隆起扇状地、西部の日高山脈を背にし、北は新得から南は広尾に連なる広大な複合扇状地と河岸段丘からなる台地で、表層は樽前山、十勝岳、恵庭岳、支笏火山等から噴出した火山灰で覆われている。

（４）市域の約60％は平担で、他は日高山系の山岳地帯である。

３　気象

（１）概況

本市の気候は、北半球特有の亜寒帯気候区に属し、春と秋は短く夏は割合に高温である。冬は厳しい寒さで雪は少なく晴天の日も多く、いわゆる大陸的気候である。最近の現象では、冬の多雪に見舞われたり、昭和49年には積雪零に等しいこともあった。また、記録によると、帯広の最低気温は、明治35年 1月26日に氷点下38.2℃まで下がり、最高気温は令和元年5月26日及び令和7年7月24日の38.8℃である。

大陸的気候の特徴で寒暑の差は国内トップクラスである。年平均気温の差は 10.6 ℃、（年平均最高気温13.9℃、最低気温3.3℃、令和2年）、明治28年3月22日には35.7℃（最高気

温 8.5℃、最低気温－27.2℃）の驚異的な差になった。

最も早い降雪記録は、昭和 20 年 10 月 11 日。最も遅い降雪記録は昭和 16 年 5 月 26 日である。

（２）過去の気象記録

年	気　温（℃）			平均湿度	総降水量	最深積雪	日照時間	平均風速
	平均気温	最高気温	最低気温	(%)	(mm)	(cm)	(時間)	(m/s)
S62	6.3	33.4	-25.2	70	749.0	61	2089.2	2.2
63	6.5	35.4	-20.1	72	990.5	33	1979.1	2.0
H元	7.6	33.4	-21.8	74	998.0	22	1961.4	2.0
2	7.8	32.8	-24.9	75	1091.0	60	2041.4	1.8
3	7.3	33.2	-22.9	72	810.0	96	1997.8	1.9
4	6.4	32.2	-21.8	75	755.0	39	1839.2	1.9
5	6.3	29.8	-20.8	75	1022.0	55	1821.3	1.9
6	7.6	37.0	-22.3	72	938.0	49	2151.4	2.0
7	7.1	34.5	-23.4	75	1044.5	91	1861.8	1.8
8	6.2	32.7	-21.1	72	791.5	58	1893.5	1.9
9	6.8	32.3	-19.2	73	881.5	70	1962.3	1.8
10	6.6	32.2	-25.0	75	1116.5	76	1909.7	2.4
11	7.3	36.3	-22.0	72	793.0	57	2153.8	2.3
12	6.7	34.6	-26.7	73	1114.5	92	2011.9	2.3
13	6.0	32.7	-24.3	70	885.0	94	2083.7	2.4
14	7.0	32.8	-20.0	71	948.0	75	2101.5	2.3
15	6.4	30.8	-22.5	73	830.5	87	2009.0	2.2
16	7.5	35.2	-20.8	71	827.0	111	2142.5	2.3
17	6.9	35.4	-21.5	71	734.0	82	2114.0	2.3
18	7.3	34.3	-20.9	71	963.5	51	1950.3	2.3
19	7.4	35.5	-16.5	71	893.5	41	2116.0	2.1
20	7.3	33.2	-22.7	73	476.5	51	2025.8	2.1
21	7.2	32.8	-20.3	74	1076.5	79	2002.6	2.1
22	8.0	36.0	-22.4	73	1159.0	72	1919.0	2.1
23	7.5	34.0	-19.4	71	876.0	52	2054.4	2.1
24	7.2	33.9	-22.5	75	1177.0	76	1883.8	2.0
25	7.3	33.6	-22.7	74	933.5	72	1944.6	2.2
26	7.6	34.8	-20.7	70	885.0	53	2162.4	2.3
27	8.1	36.5	-20.2	71	890.5	80	2094.2	2.2
28	7.2	32.3	-19.6	71	1275.0	97	2063.9	2.2
29	7.2	37.1	-22.1	69	892.5	63	2181.9	2.1
30	7.5	34.5	-21.3	73	1107.0	106	1986.9	1.9
R元	7.9	38.8	-24.5	72	778.0	33	2152.6	2.2
2	8.1	35.8	-22.4	74	716.0	78	2011.7	1.9
3	8.2	37.1	-21.5	74	1002.5	67	2085.0	2.0
4	8.3	33.7	-19.7	74	1011.5	62	2088.7	1.9
5	9.1	35.8	-22.3	73	808.0	66	2165.3	1.9
6	8.9	35.1	-18.6	73	671.0	58	2128.7	1.9
7	9.2	38.8	-17.8	73	909.0	129	2123.7	1.9

第２節　災害の概況

１　主要災害記録

（１）雪害・風害

発生年月日	被　害　状　況
大正 13 年 5 月 10 日	強風、農作物に大きな被害
昭和 6 年 3 月 20 日	暴風雪
昭和 6 年 5 月 25 日	降雪により農作物に被害
昭和 13 年 6 月 4 日	風害により十勝全域農業被害
昭和 14 年 1 月 19 日	降雪、吹雪、広尾線不通
昭和 14 年 2 月 6 日	南十勝に大雪、広尾線 8 日間不通
昭和 15 年 5 月 25 日	大雪
昭和 33 年 2 月 12 日	帯広で 68 ㎝の降雪。強風も加え、交通網寸断され、国鉄 95 本の列車運休。家屋の倒壊、橋の被害 3,500 千円
昭和 35 年 1 月 16 日	降雪 49 ㎝。広尾線 20 本、士幌線 28 本運休、根室本線 56 本運休 バス市内市外とも全休
昭和 36 年 1 月 25 日	降雪量 35 ㎝。交通機関麻痺
昭和 36 年 2 月 7 日	降雪量 26 ㎝。交通機関麻痺
昭和 38 年 5 月 22 日	強風、異常乾燥で農作物に被害
昭和 39 年 3 月 22 日	強風、十勝一帯（芽室町大火）
昭和 41 年 3 月 16 日	降雪量 49 ㎝。水分を含んだ重い雪のため送電線が切れたり、高圧線鉄塔倒壊。交通機関麻痺
昭和 42 年 8 月 26 日	降雹（ひょう）被害。（基松方面）
昭和 42 年 9 月 9 日	この日から 18 日間にわたる長雨で湿潤、農作物に大きな被害
昭和 44 年 2 月 1 日	降雪量 87 ㎝。交通寸断
昭和 44 年 2 月 5 日	降雪量 69 ㎝。交通麻痺、孤立地域あり。自衛隊に災害派遣要請
昭和 45 年 1 月 31 日	降雪量 57 ㎝。国鉄 293 本運休。バス･タクシー運休
昭和 45 年 3 月 16 日	日降雪量 102 ㎝。帯広測候所開設以来の豪雪 農村部牛乳搬出不能。建物にも被害(被害総額 109,799 千円)
昭和 47 年 2 月 14 日	降雪量 50 ㎝。交通機関麻痺
昭和 47 年 6 月 10 日	降雹（ひょう）。帯広・芽室・幕別 2,200ha の畑に被害
昭和 48 年～49 年	この間の冬は、記録的な豪雪となり、樹木に寒干害が出て苗圃・庭木に被害
昭和 50 年 3 月 21～22 日	ドカ雪に見舞われる。帯広 100 ㎝。十勝支庁に「3.22 低気圧災害対策本部」設置。交通機関をはじめ送電線の切断、家屋の倒壊、ビニールハウスの損傷など（被害額 680,000 千円）

発　生　年　月　日	被　　害　　状　　況
昭和50年 3月24日	降水量32.5㎜。この後遺症で春の農作業が遅れたり、融雪洪水のため田畑冠水、住宅浸水の被害
昭和53年1月21～22日	総降雪量88㎝。バス全面運休、国鉄ダイヤの乱れ、学校の臨休、氷まつり中止
昭和54年4月3～4日及び17日	大雪による交通障害。さらに、融雪と強風による災害により、十勝管内の総被害額2,423,970千円
昭和55年5月28日	強風（砂塵）により農作物被害
昭和56年8月23日	台風15号、最大瞬間風速25.5m。住家一部破損205世帯、4,900haの畑に被害。その他営農施設、民有林被害合計1,155,000千円
平成3年1月18日	日降雪量92㎝。1月の日降雪量としては帯広測候所開設以来の記録。交通機関麻痺
平成3年9月27～28日	強風害、台風19号により被害が発生。帯広の最大瞬間風速22.6m/s。広尾町負傷者1名。帯広市住宅屋根破損など農業被害10,580千円、林業被害205,950千円、水産業被害154,170千円、停電1,900戸
平成4年9月3日	強風害、帯広の最大瞬間風速25.7m/s。学校、住宅、倒木被害
平成6年2月22日	強風害、帯広の最大瞬間風速21.1m/sのこの強風によりＪＲ根室本線の新得町付近で列車脱線、負傷者7名、列車計38本運休
平成6年10月13日	強風害、台風29号により広尾町と大樹町中心に住宅被害 帯広の最大瞬間風速20.0m/s
平成7年4月20日	強風害、発達した低気圧により、帯広市、音更町など1市5町で住宅被害39件。帯広の最大瞬間風速25.8m/s
平成8年1月8～10日	強風･大雪害、南岸低気圧による大雪。帯広空港10便欠航、ＪＲ9本運休など交通障害が多発、日最大降雪量は帯広27㎝、最深積雪は帯広空港69㎝、最大瞬間風速は帯広で19.3m/s
平成8年2月5～6日	大雪害。南岸低気圧による大雪。総降雪量は帯広24㎝、中札内村上札内74㎝、帯広空港の5日の日降雪量は59㎝。
平成11年3月5～6日	強風害、猛烈に発達した低気圧による停電は帯広・音更・芽室・幕別等15市町村で約6万8,700戸。帯広の最大瞬間風速25.0m/s
平成11年9月24～25日	強風害、台風18号による停電は帯広・幕別・上士幌・足寄の4市町で2,150戸。帯広の最大瞬間風速26.7m/s
平成12年1月7～13日	7日降雪量44㎝、10日降雪量29㎝、13日降雪量11㎝の大雪。災害対策本部設置
平成14年1月21～22日	農家のビニールハウス等の倒壊14件、負傷者１名。 総降雪量35㎝、全小中学校休校、交通障害
平成14年6月10～11日	強風害。帯広市の最大瞬間風速24.7m/s。住宅屋根破損、公園内樹木、街路樹倒木、農作物被害等

発　生　年　月　日	被　　害　　状　　況
平成 14 年 10 月 1～2 日	強風害。台風 21 号の影響で街路樹、防風林倒木、農業施設（ビニールハウス、倉庫）被害等。帯広の最大瞬間風速 32.3m/s
平成 15 年 9 月 13～14 日	強風害。台風 14 号の影響で民家屋根トタン剥離、街路樹、公園樹木倒木、被害等。帯広の最大瞬間風速 23.9m/s
平成 16 年 4 月 21 日	強風害。民家屋根トタン剥離、街路樹、公園樹木倒木、被害等。帯広の最大瞬間風速 27.0m/s
平成 16 年 9 月 7～8 日	強風害。台風 18 号の影響で街路樹、公園樹木倒木、農業施設（ビニールハウス）被害等。帯広の最大瞬間風速 20.5m/s
平成 18 年 3 月 20 日～21 日	強風害。日本海北部と関東沖にあった低気圧が、20 日にはオホーツク海で一つにまとまり非常に発達し 21 日にかけて強風となった。帯広市で街路灯倒壊 1 件、倒木・枝折れが 2 件発生した。帯広の最大瞬間風速 27.3m/s
平成 18 年 3 月 30 日	大雪害。発達した低気圧による湿った大雪により、ビニールハウスや牛舎併せて 8 か所損壊した。道路は国道 4 路線、道道 1 路線、高速 2 路線が降雪や視界不良、なだれ等により通行止めとなった。また、JR は普通列車 7 本が運休、特急に遅れが出た。航空機は帯広発着の 11 便が欠航。帯広の総降雪量 38 ㎝
平成 20 年 5 月 11 日	強風害。高気圧に覆われて日が射していたが、上空には 3 月下旬並の寒気が入っていた。桜まつりの会場内で局地的に突風発生。吹き飛ばされた会場テントの支柱が子供にあたり 1 名軽傷。帯広の最大瞬間風速 8.8 m/ s
平成 26 年 12 月 16～17 日	大雪害。小中学校全校が臨時休校、あいのりバスが終日運休したほか、大正町にて倒木の影響により 53 戸が約 2 時間停電。 総降雪量は帯広市街地 60cm、帯広空港 73cm
平成 28 年 2 月 29 日	大雪害。 総降雪量は帯広市街地 45cm、帯広空港 56cm
平成 30 年 3 月 1 日	大雪害。帯広観測所における総降雪量は 47cm となり、3 月としては観測史上 6 位。十勝管内各地でも記録的な大雪となった。 積雪により D 型ハウスなどの営農施設 11 件やトラクター等の営農機械 7 台に被害。また、市内各地での通行止めや交通渋滞に加え、JR や路線バス、タクシーの運行停止など、交通網が機能停止したことにより帰宅困難となった市民等を受け入れるため、市役所 11 階を一時休憩所として開放。翌朝まで宿泊した方も含め、6 名が利用。
令和 3 年 12 月 1～2 日	強風害。日本海北部の低気圧が急速に発達しながらサハリン付近に進み、南にのびる前線が北海道を通過。1 日夕方から南西の風が急に強まり、帯広空港で最大瞬間風速 25.7m/s を観測。2008 年からの統計期間で第 1 位の値を記録した。また、倒木等により同時刻から停電が発生し、農村部を中心に最大約 2,150 戸が影響を受けた。1 日に帯広の森体育館、2 日に大正農業者トレーニングセンター、川西中学校を避難所として開設し 2 名が利用。倒木被害 73 件、建物被害 21 件、農業施設（ビニルハウス、牛舎等）被害 668 件、転倒等による人的被害 3 件。

発　生　年　月　日	被　　害　　状　　況
令和４年１月 11～12 日	大雪害。十勝管内で高速道路２路線、国道４路線、道道１路線が通行止めとなり公共交通機関の運休も相次いだ。ビニールハウス 18 件（22 棟）、農業倉庫１件が被害を受けた。 11 日正午からの 24 時間降雪量は帯広市街地 59 ㎝、帯広空港 57 ㎝。
令和４年 12 月 22～23 日	雪害。湿った重い雪の影響で倒木や電線等への着雪が多発し、停電や電話の不通が発生。帯広市内では 23 日午前０時から 25 日夕方までの間に、農村地区を中心に述べ約 900 戸が停電。電話の不通は延べ約 500 件。十勝管内で高速道路３路線、国道４路線、道道８路線が一時通行止めとなり、鉄道の運休、航空機の欠航など交通にも支障が生じた。22 日午前０時から 23 日正午までの降雪量は、帯広市街地 37 ㎝、帯広空港 52 ㎝。帯広市の 12 月の「24 時間降水量」及び「48 時間降水量」の日最大値としては、1963 年（昭和 38 年）の統計開始以来の最大値を更新（76 ㎜）
令和５年５月 30 日	竜巻発生。午後３時 20 分ごろ、以平町付近で発生し、農家２戸の畑でニンジン 1.6ha、大豆 1ha、デントコーン 1ha に被害。とかち帯広空港午後３時 25 分発の航空機１便が出発を遅らせた。
令和７年２月 3～4 日	大雪害。発達した低気圧の影響により、４日９時までの 12 時間降雪量は帯広市街地で 120 ㎝となり、国内の 12 時間降雪量の記録を更新。十勝管内各地でも記録的な大雪となった。 積雪により、学校の屋内練習場や農業用ビニールハウス倒壊など物的被害 26 件、除雪時の転倒など人的被害７件、その他１件。また、高速道路１路線、国道４路線が通行止めとなり、JR や路線バスの運休、航空機の欠航など公共交通機関に支障が生じたほか、各地でスタックした車が相次いだ。 雪害対策本部を設置。

（２）水害

発　生　年　月　日	被　　害　　状　　況
大正２年８月 28 日	台風による被害。降水量 139㎜
大正３年８月 14～15 日	低気圧による洪水
大正５年５月９日	融雪出水
大正８年９～10 月	十勝川が３回にわたって氾濫、河西橋が流失 十勝では住宅、農作物、公共土木などの被害額 6,505,576 円
大正９年６月 26 日	十勝川溢れ、架替した河西橋落橋
大正９年８月 9～11 日	降水量 115㎜。帯広の浸水耕地 160 町歩
大正 11 年８月 25 日	帯広に大洪水。降水量 214㎜。十勝川とその支流の各河川は大増水。帯広町家屋の流失 14、損壊９、床上浸水 321、田畑浸水冠水流失 597 町歩、道路の決壊は道と市合わせて 10 か所 880 間、橋の流失４、破損１、堤防決壊７か所 4,800 間。被害合計 827 千円

発　生　年　月　日	被　　害　　状　　況
大正 15 年 10 月 2 日	連続 101㎜に達する降水量。水害発生
昭和 10 年 8 月 28～30 日 昭和 10 年 9 月 24～26 日 昭和 10 年 10 月 18～28 日	降水量 105.4㎜ 降水量 105.2㎜ 降水量 145.4㎜ 帯広市街 3 回にわたり、大小の水害あり浸水家屋約 2,800 戸。被害金額 397 千円
昭和 15 年～16 年	連続台風被害
昭和 22 年 9 月 14～15 日 昭和 23 年 9 月 15～17 日	カスリン台風 アイオン台風 帯広での耕作地被害 200 町歩
昭和 30 年 7 月 3 日 昭和 30 年 7 月 30 日	降水量 29.1㎜ 降水量 32.1㎜ 札内川氾濫
昭和 30 年 9 月 6～7 日	発達した低気圧により降水量 143㎜。ウツベツ川溢水
昭和 37 年 8 月 3 日	台風 9 号。降水量 132㎜。札内川、帯広川増水。市街地水害 （帯広市に災害救助法適用）
昭和 39 年 8 月 26 日	台風 14 号くずれの低気圧の影響で降水量 128㎜
昭和 40 年 9 月 14～18 日	台風 24 号とこれに先行した 2 つの低気圧の影響により降水量 113㎜
昭和 41 年 6 月 28～29 日	台風 4 号。降水量 91㎜
昭和 42 年 6 月 5～7 日	降水量 118.2ｍｍで河川溢水
昭和 46 年 9 月 12 日	台風 26 号被害
昭和 47 年 9 月 17 日	台風 20 号被害
昭和 48 年 8 月 22～23 日	帯広で 95㎜の降水量。道路・堤防など決壊被害
昭和 48 年 9 月 14 日	114㎜の降水量で中小河川氾濫。道路の決壊、家屋浸水などの被害
昭和 49 年 4 月	降水量 164㎜（平年値 61.8㎜の 2 倍）
昭和 49 年 6 月	この月の降水量は平年の 93.4㎜を大幅に上回り、244㎜と帯広測候所観測開始以来の記録的な降水量
昭和 50 年 5 月	降水量 164㎜。平年値 75.7㎜の 2 倍
昭和 50 年 8 月 24 日	台風 6 号。降水量 56㎜、床上浸水 45 世帯、床下浸水 140 世帯
昭和 51 年 10 月 20～21 日	降水量 65.5㎜で 1 時間雨量 23.5㎜となり 10 月の最大値を記録。家屋の浸水、河川決壊、線路の冠水のため運休。強風による負傷者あり
昭和 52 年 7 月 2～6 日	長雨。総雨量 112㎜、道路の決壊、土木、林業関係の被害

発　生　年　月　日	被　　害　　状　　況
昭和54年10月19日	台風20号。降水量94㎜。床上浸水1世帯、床下浸水17世帯
昭和56年8月4～6日	台風12号。降水量162㎜、床上浸水11世帯、床下浸水70世帯、4,400haの畑に被害、その他の土木被害等あり 被害合計2,306,000千円
昭和63年11月24～25日	降水量192.5㎜。床上浸水7世帯、床下浸水99世帯、道路の決壊、土木、農業関係に被害
平成3年8月21日	浸水害、降水量は帯広76㎜、農業被害890,000千円
平成4年8月7～9日	浸水害、台風10号による大雨 降水量は帯広49㎜、足寄、陸別町中心に農業被害463,200千円、林業被害200,000千円
平成4年9月9～12日	浸水害、台風17号による大雨、帯広の総雨量135㎜ 河川、住宅電力関係に被害が発生。農業被害面積は681.6ha
平成5年6月3～6日	浸水害、帯広の総雨量162㎜、農業被害552,850千円、林業被害76,200千円
平成6年9月18～20日	浸水害、秋雨前線により上士幌･音更町で床下浸水。 帯広の総雨量88㎜
平成9年8月9～10日	温暖前線と台風11号から変わった低気圧による大雨。帯広の総雨量102㎜
平成10年8月27～30日	浸水、洪水害。帯広の総雨量152㎜、管内北部を中心に被害が集中
平成10年9月15～16日	浸水、山がけ崩れ被害。台風5号による影響で管内南部を中心に総雨量300㎜を越え、帯広は120㎜の大雨となった。災害対策本部設置
平成11年7月13～15日	浸水害、停滞前線による大雨、帯広の総雨量100㎜。明きょ排水流出、農地一部冠水
平成12年4月22～23日	浸水害。帯広の総雨量94.5㎜。床上浸水1世帯、道路冠水等
平成13年9月11～13日	浸水害。帯広の総雨量159㎜。市道決壊1箇所、札内川水系緑地浸水被害
平成14年7月10～11日	浸水害。帯広の総雨量127㎜。台風6号による影響で道路冠水、農作物倒伏被害（30.3ha）等
平成15年8月9～10日	浸水害。帯広の総雨量167㎜。台風10号による影響で道路・宅地冠水、橋梁一部損壊（居辺川の橋脚脇道路崩落）
平成18年6月24日	北海道付近は気圧の谷となっており、上空には寒気が流入し、大気の状態が非常に不安定となっていた。帯広市では、路肩崩落のため市道2本が通行止め、道道と市道それぞれ1本が片側通行。帯広の総雨量25㎜
平成23年9月1日～8日	9月1日から8日にかけて、台風第12号、北海道付近に停滞した前線及び台風第13号からの湿った空気も合流。帯広の総雨量が128㎜。 十勝川洪水予報 発表。帯広川での内水氾濫、高速道路道東自動車道、国道、道々の通行止めやJR 等交通機関の運休

発　生　年　月　日	被　　害　　状　　況
平成 28 年 8 月 30 日～31 日	8 月 17 日～23 日に 3 つの台風（7 号、11 号、9 号）が北海道に上陸。30 日から 31 日にかけて北海道に接近した台風 10 号の影響による大雨。帯広の 29 日～31 日の 3 日間雨量は 129.5㎜。中島町で戸蔦別川が氾濫。市街地では木賊原樋門周辺での内水氾濫、バラト地区での地下水上昇による冠水。住家被害は床上浸水 3 件、床下浸水 24 件。十勝川・札内川の河川敷の運動施設冠水。畑の冠水 447ha。橋梁崩落 2 橋。道路被災 35 箇所。その他倒木被害等多数。 災害対策本部設置。札内川沿い、十勝川沿いに避難勧告発令。市内 20 箇所の避難所開設。十勝 19 市町村に災害救助法適用。激甚災害指定。
平成 30 年 3 月 8～9 日	同年 3 月 1 日の大雪による積雪が解消されないまま、更なる降雪から雨へと変わったことにより、道路等の排水機能が著しく低下し、市内各地で道路冠水が多発。市内 4 カ所の事業所で床上浸水。 9 日は市内全小中学校で臨時休校。 帯広市内の降雪量 11cm、降水量 68.5㎜。
令和 4 年 8 月 16 日	十勝の山間部で前線と低気圧の影響によりまとまった雨が降った影響で、十勝川へ流入する伏古別川の水流が停滞したことにより、木賊原樋門付近で道路冠水が発生。帯広開発建設部に樋門閉鎖と排水ポンプ車の出動を要請。 帯広市の総降水量は 74 ㎜。帯広市に「土砂災害警戒情報」及び「洪水警報」が発表された。
令和 7 年 9 月 20 日～21 日	前線を伴った低気圧が北海道付近を通過し、暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となった。帯広市の総雨量は 98 ㎜。帯広市では「大雨警報（浸水害）」及び「洪水警報」が発表されたほか、十勝地方では、線状降水帯の発生を知らせる「顕著な大雨に関する気象情報」の運用を開始した令和３年６月 17 日以来、初めて線状降水帯が発生した。

第３節　被害想定

洪水

（１）現況

洪水により被害が想定されるものとしては、集中豪雨や局地的大雨による河川の氾濫や堤防の決壊があり、これに伴い、建物の浸水や道路の冠水などが発生することが考えられる。

帯広市の年間降水量は全道平均より低く、全国的に見ても小雨地帯であるが、市街地は全国有数の流域面積を誇る十勝川と札内川に囲まれ、これらの川の支川が市内を流れている。また、市街地は扇状地からなる急勾配の地形となっており、破堤した場合に氾濫流により甚大な被害が発生する可能性がある。

過去の代表的な洪水被害の事例として、1981 年（昭和 56 年）の台風 12 号や 2016 年（平成 28 年）の台風 10 号の影響による被害があり、建物の浸水や橋梁の崩落、農地の流出など、帯広市をはじめ十勝管内で甚大な被害を及ぼした。

（２）国・北海道の浸水想定

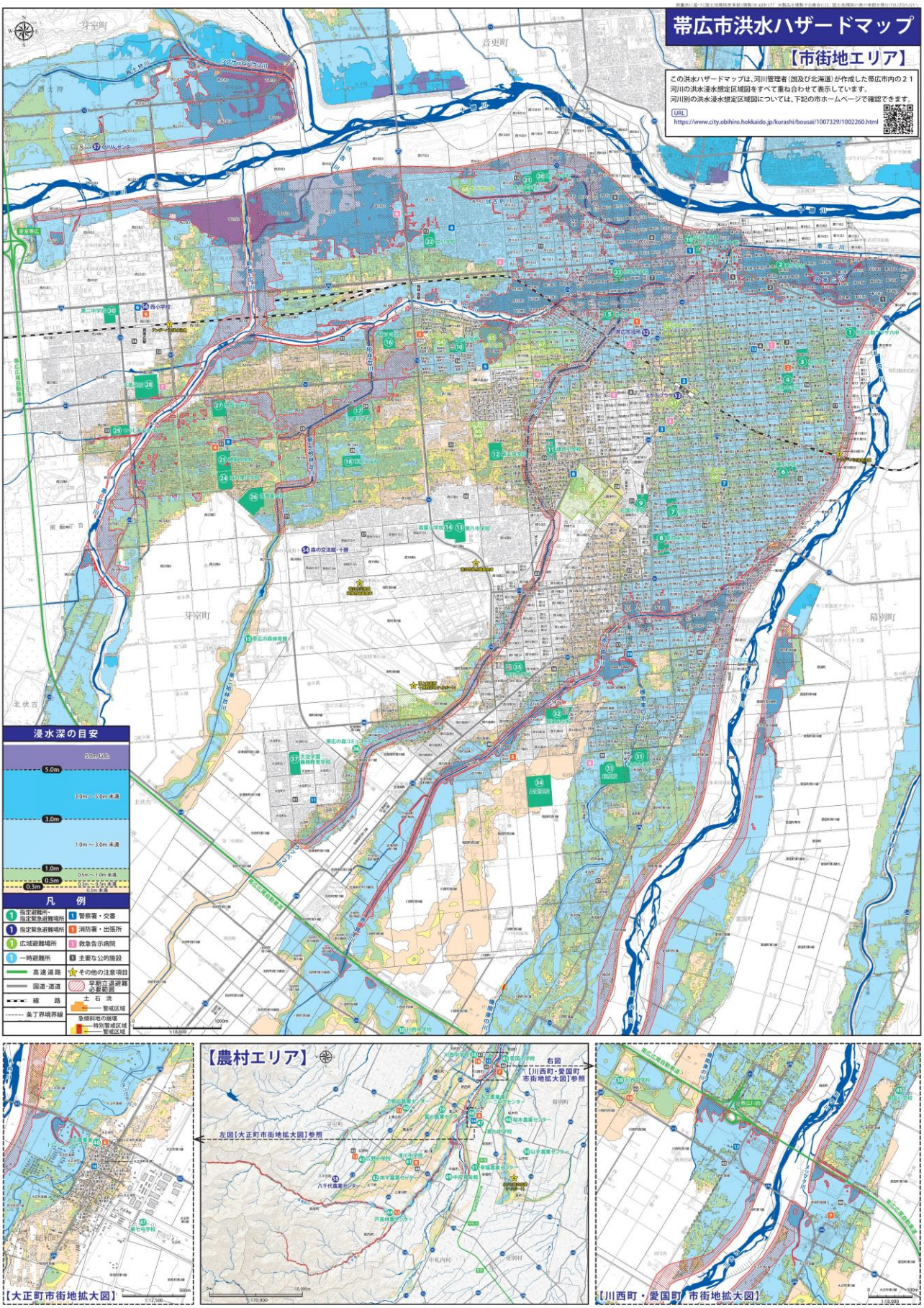
国や北海道では、洪水により重大な、又は相当な損害を生ずるおそれがある河川を洪水予報河川や水位周知河川として指定している。これらの河川において、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより被害の軽減を図るため、想定最大規模降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定し、浸水深等を示した洪水浸水想定区域図を作成し、公表している。

洪水浸水想定区域図が作成されている帯広市内の河川

河川管理者	河川名
国（洪水予報河川）	十勝川、札内川、帯広川
北海道（洪水予報河川）	途別川
北海道（水位周知河川）	売買川、帯広川、ウツベツ川、柏林台川、新帯広川

（３）帯広市の被害想定

帯広市では、国や北海道が公表した洪水浸水想定区域図を統合した帯広市洪水ハザードマップを作成し、公表している。帯広市洪水ハザードマップを基に、洪水浸水想定区域内の人口や全国及び十勝における実災害時の避難率を用いて避難者数を推計した。推計の結果については次のとおりである。

洪水浸水想定区域内の人口	約128,500人
避難率	13%
洪水による避難者数	約16,700人

帯広市洪水ハザードマップ